# nomadic BEEing

## ”はちにわ”で築く移動養蜂との甘い関係

恵庭に定住した「よそ者」は独自の地域コミュニティを生み、やがてひとが集まり、生業を築き、
いつの間にか人を取り囲む環境そのものが「ガーデン」としてその地に根付いたことで、人々の暮らしを豊かにしてきました。
しかし、札幌のベッドタウンとして急速に発展が進み、山と平野の境界に位置する恵庭本来の風景・水網が見えにくくなっています。
ニュータウンの完成からおよそ 30 年。隠れた水網を活かしながら、新たな「よそ者」として首都圏の趣味の養蜂家を受け入れ、
小さな取り組みの連なりが水網と蜜源のネットワークとなり、移ろいながら街全体が「はちにわ」になる将来像を提案します。

## 01. 背景

### あなたの住むまちに『よそ者』はいますか？

Uターンや Iターン、そして 2 拠点生活やノマドワーカーという言葉が生まれる、ずっと前から、
**人々はあちこち移動してはどこかに根を張り、暮らしを築いてきました。**
北海道の道央、広大な石狩平野の南東部に位置する恵庭市は、1886 年に山口県岩国からやってきた 65 つの世帯が**漁川沿いに集団移住**したことをきっかけに開拓が始まりました。

〝開拓〞とは、土地を耕すだけではありません。
**ひとが集まり、生業が生まれ、いつの間にか人を取り囲む環境そのものが「ガーデン」**となり、
人々に愛されてきたのがこの恵庭の地であると考えます。

### 総延長 429km の水辺と見えない山裾の風景

恵庭の始まりともいえる漁川。
その**豊かな水源**は恵庭市をはじめ、江別市・千歳市・北広島市・由仁町といった**石狩平野の自治体の共同の水がめ**として暮らしになくてはならないものとなっています。
山裾に位置する恵庭市街地には、漁川をはじめ**多くの支流や水路がめぐり水網を形成していますが**、急速な市街化によって山裾としての風景は見えにくくなっています。

**恵庭市街地周辺の水網分布図**
この範囲内に表示されている水網一級河川・水路の総延長＝ **429.052km**
基盤地図情報をもとに QGIS とで作成・計算
※1本線で流路を示すものも開発後表示されているものがあるため、
便宜上「流路の総延長」ではなく「水辺の総延長」として統合しています。

## 02. ターゲット

### 首都圏で養蜂を行っていて活動の幅を広げたい趣味の養蜂家

**そんな恵庭に、短い夏の間だけやってくる「よそ者」がいます。**
雪が溶け、新芽が芽吹き、6 月上旬の花の開花と共に、**内地（本州・四国・九州）の移動養蜂家が一斉に北海道へ**とやってきます。短い夏の間を時には道内を移動しながら過ごし、次年度に向けての準備をします。
**北海道は全国の蜜源の最終地点です。**北海道では、明治まで過度な山林利用がなかったことや産炭地だったという**歴史的要因**、そして冷温帯林～北方林に特有の樹種構成などの**気候的要因**から、**蜜源の多様性や地域性**が育まれてきました。
**新たな「よそ者」として『首都圏で趣味で養蜂を行っており、活動の幅を広げたい養蜂家』をターゲットとし、**
アクセスの良さや実際に恵庭周辺に拠点をもつ養蜂家との連携を活かした新たな街のありかたを提案します。

出典：農林水産省「養蜂をめぐる情勢」

**移動養蜂家の一年の動きの例**

**２０２２年現在の「分蜂マップ」**

## 03. 調査

### 現地で 4 代続く荒井養蜂場さんへヒアリング

もともとは十勝の士幌町を
拠点にしていましたが、
50 年ほど前からは今の北広島市に
拠点を移して養蜂を行っているそうです。

**■普段はどんなところでミツバチを育てていますか？**
全体で 200 群ほど所有していますが、**北広島市、長沼町、千歳市、恵庭市、札幌市南区、三笠市に蜂場**を持っていて、蜜源の大きさに合わせて 1 箇所あたり 30 群ほどで分散させます。トラブルを避けるため人里離れた場所に置きます。**冬場は越冬のため鹿児島の蜂場に**持っていって過ごします。

**■この地域で蜜源となる植物はどんなものがありますか？**
6 月ごろ北広島、長沼、千歳、恵庭で山の方の**アカシア**、牧場の**クローバー**とか。最後に長沼の**ソバ**で蜜を採って、それから鹿児島に向かう準備をします。

**■蜜源となる畑や林は誰が所有・管理しているのですか？**
基本的に畑だったら**農家**さんがいて、毎年「置かせてください」という契約をして**北海道に申請**します。山の方は蜜源を増やそうにも山を所有して植えるのは現実的ではなく、今あるわずかな蜜源を奪い合うようになってしまっているので、**新規参入は難しい**というのが現状です。

## 04. 課題

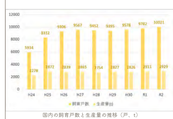
### 蜜源の減少に伴う小規模養蜂の陰り

**蜜源植物が減少**

出典：「養蜂をめぐる情勢」より農水省畜産振興課調べ

山際に自生したり畑で育てられている蜜源ですが、**その数は減少し続けています**。かつて緑化政策によって植樹され遷移により置き換わり始めている種もあります。人里離れた山際への植樹の試みも見られますが、**コストや維持管理の面から見ても負担は大きい**のが現状です。

**新規養蜂家の参入が困難**




出典：農水省畜産振興課調べ

蜜源の減少や、近年の都市養蜂・週末養蜂の関心の高まりにより、**飼育戸数は増加している一方、生産量は横ばい**となっています。**都市部では蜂の移動圏が被らないようにしながら少ない蜜源を奪い合うような状況**になっており、実態として組合への新規参入は煙たがられてしまっています。

**蜜源の管理意識の低下**

出典：札幌市 HP

養蜂業が対象とする蜜源植物は、**多くの場合養蜂家の所有物ではありません**。養蜂振興法第 5 条で自治体での蜜源の管理や増殖に取り組むこととされているものの、実際に取り組んでいる例はほとんどなく、さらに**養蜂は農水省、施策は自治体と分断**が起きてしまっています。

## 05. コンセプト

### 恵庭を巡る水網を軸として、蜜源を育て見守る

**水網沿いの地域と連携して蜜源を育てる**

ミツバチは熱に弱いため、近くの川などから水を集めて適度に巣を冷却しています。**恵庭の地勢の特徴である水網を街へと引き込みながら蜜源を増やしていく**ことで、水の街としての景観を形作りながら、**水網がミツバチにとっての蜜源網としても機能します。**

**10 群未満の趣味の養蜂家を受け入れ蜜源を共有する**

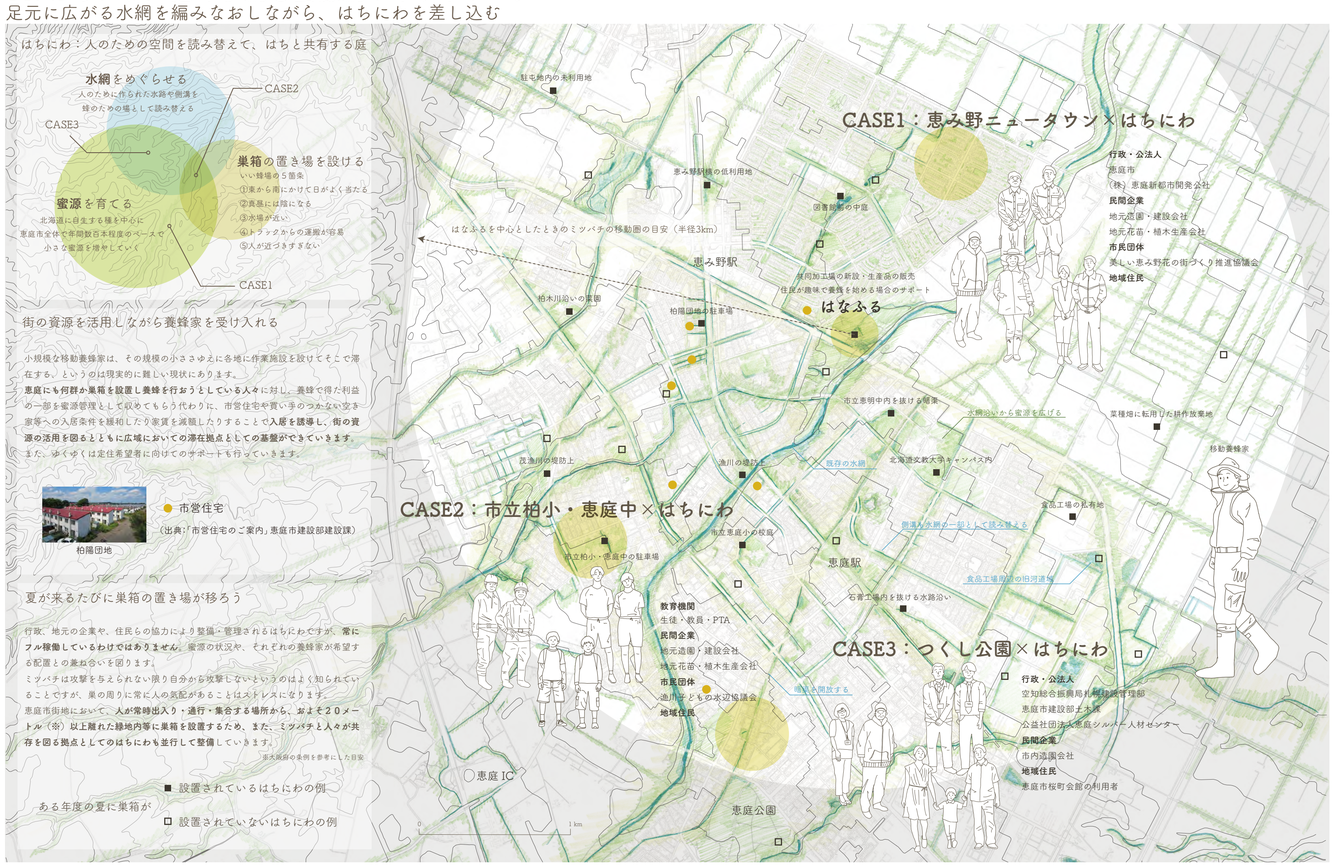
夏の間涼しい石狩東部地域で養蜂をやってみたい**小規模な転飼養蜂家の中期滞在**を受け入れます。**街に集約した蜜源を 10 群未満の小規模な養蜂家が共有して養蜂を行う**という新たな飼育形態の場とすることで、限りある蜜源に見合った飼育の規模のバランスづくりを図ります。

**街として蜜源を管理する仕組みをつくり見守る**

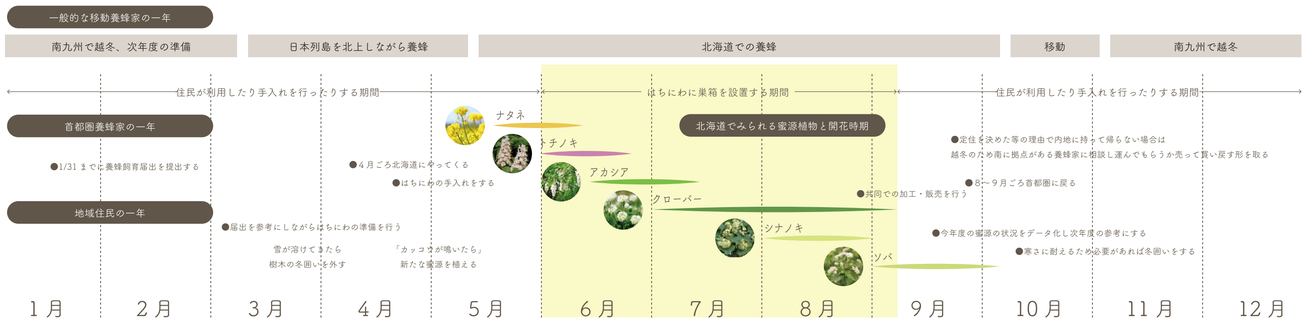
**街として分散的・小規模な蜜源を管理する仕組みを提案し**ます。自治体（恵庭市、北海道）が主導しながらも、地域企業、大学などの各種機関、そして住民という**さまざまな属性の主体がさまざまな規模の蜜源を所有することをサポートする**ことで街全体で蜜源を見守ります。

## 06. はちにわが描く水網と蜜源網のネットワーク

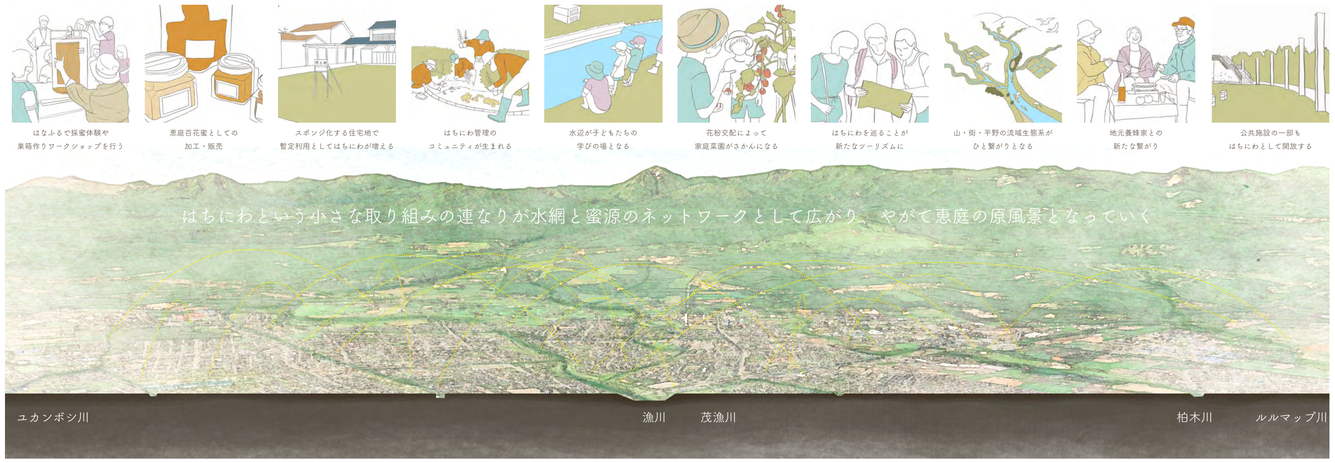
足元に広がる水網を編みなおしながら、はちにわを差し込む




## 07. はちにわと移動養蜂家の１年

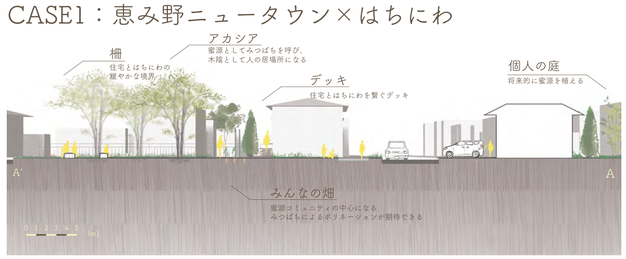


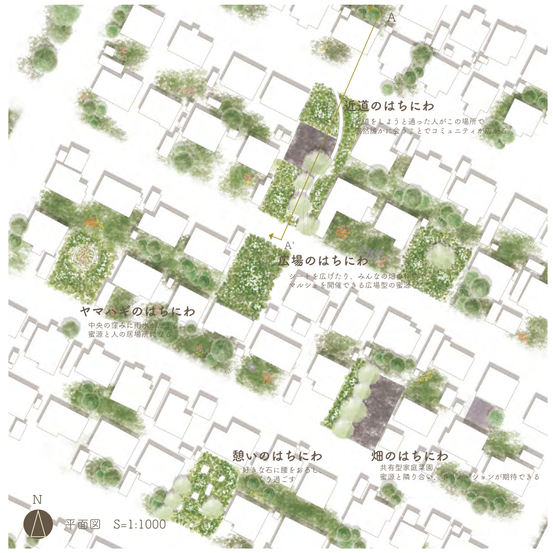

## 08. 恵庭での暮らしとはちにわの甘い関係



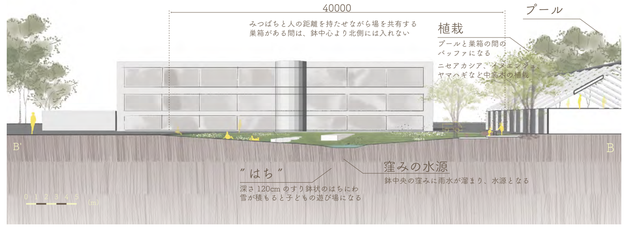
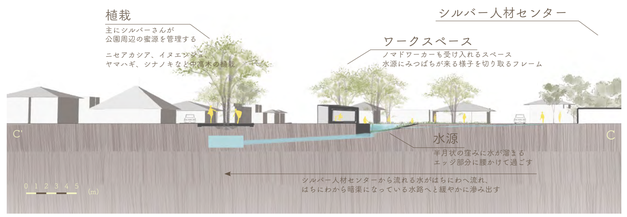

## 09. 多様な主体が手がけるはちにわの取り組み

### CASE1：恵み野ニュータウン×はちにわ






### CASE2：市立柏小・恵庭中×はちにわ



### CASE3：つくし公園×はちにわ